【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立循誘小学校

1　前年度 評価結果の概要	○算数科を軸とした授業改善を行い、TTやICTを活用した授業実践を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを次年度も継続していく。 ○危機管理については、災害別の避難訓練や年６回の一斉下校指導などの実施により、児童の意識を高めることができた。次年度も引き続き、安全教育・防災教育に力を入れていく。 ○開かれた学校づくりについては、学校と保護者・地域との連絡・連携を密にしてきた。次年度は学校ボランティア等を取り入れることで、更に開かれた学校づくりの推進を努めていく。 ○「教職員の働き方改革」については、今年度もC評価であった。日々の業務の見通しだけでなく、週や月単位での業務の見通しをもって、仕事を進めていくことが必要である。
2　学校教育目標	**夢をもち　仲間とともに　学びを深める　子どもの育成**
3　本年度の重点目標	**①思いやりの心をはぐくむ教育の推進**　**④社会に開かれた学校づくり** **②楽しく分かる授業の展開**　**⑤高きに和する職員集団** **③子どもの自尊感情を高める取組**

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 ○12月の県学習状況調査において、4，5，6年生の国語と算数を対県比1．0ポイント以上	・共通実践（「分かるレベル」を意識した授業づくりと表現活動の充実）を意識した授業実践を行う。 ・自主学習への取組と内容の充実を図る。 ・校内研究の推進を図る。	B	・「分かるレベル」を意識しながら、授業実践を行い、研究会で意見交流をすることができた。 ・レインボー週間において、低学年から自主学習に取り組むことができた。 ・研究授業の実施計画を作成することができた。	B	・学力向上対策評価シートのマイプランの成果指標を達成している教員の割合が96%であり、深い学びを意識した授業に取り組むことができた。 ・12月の県学習状況調査において、対県比で4年国語（1.02）・算数（1.07）、5年国語（0.99）・算数（0.93）、6年国語（0.89）・算数（0.90）となった。児童の強みと弱みを把握し、共通実践していく必要がある。	B	・授業参観すると、どのクラスも落ち着いていた。成果を出すには時間がかかる。4年生以外は、県平均に届かなかったが、学校の取組は理解できる。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
	○読書の奨励	○年間貸出冊数（多読賞→低：120冊、中：110冊、高：90冊　以上）について、達成率68％以上	・朝読書に全校で取り組む。 ・図書館まつりを中心としたイベントを工夫したり、本の紹介をしたりして、本への興味・関心を高める。	B	・図書室で密にならないよう図書館まつり（しおりコンテストやクイズなど）を行った。 ・児童集会で本紹介をしようと考えていたが、コロナ対応のため実施ができていない。 【達成率】低：60冊→42.6%、中：55冊→58.8%、高：45冊→77.4%	A	・図書室で密にならないよう図書館まつり（塗り絵コンテストやクイズなど）を行った。 ・年間貸し出し冊数の達成率は、低学年69．5%、中学年74．6%、高学年68%であった。学校全体では70．7%であり、目標が達成でき、児童の読書への関心を高めることができた。	A	・朝読書は、読書の推進のよいきっかけとなっていると感じた。感想を書かせたり、感想交流の場を設けていくと、更に読書への関心が高まると思う。	・図書館教育担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級担任全員が、授業参観において年1回以上道徳の公開授業を行う。 ○「思いやりの気持ちをもって接しているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・児童生徒支援教員と連携を図り、道徳の授業の充実に努める。 ・善行紹介「名人紹介」を継続するとともに、質の向上を図る。	B	・コロナ対応のため、授業参観がなく道徳の公開授業ができていない。2学期の授業参観で行う予定。 ・児童生徒支援教員による人権教育に関わる系統的な授業を全学級で実施した。 ・名人紹介を行い、放送・掲示することで、友達の良いところに目を向ける機会を育てている。	A	・コロナ対応で授業参観が1回しかなかったが、11月の授業参観で、12クラス中8クラスが道徳の公開授業を実施した。 ・児童生徒支援加配教員による人権に関わる授業を、年2回全クラスで実施した。 ・「思いやりの気持ちをもって接しているか」について、肯定的な回答をした児童が95%であった。 ・コロナに対する差別防止の授業を年2回実施した。	A	・「名人紹介」は、循誘小の伝統的な取組となっていて、互いのよさを見つける活動は大変良い。 ・トイレのスリッパもよく揃っているなど、思いやりの心が育ってきていると思う。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 ・児童生徒支援教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校で楽しく過ごしているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上 ○毎月の児童アンケート、2か月に1回の保護者アンケートの実施。	・子ども支援部による情報の一括管理と共通理解に基づいた支援を行う。 ・各種アンケート結果からの早期対応を行う。 ・教育相談旬間を設定する。	A	・「月の心」アンケートを毎月実施し、いじめについてチェックしている。気になる事項は詳しく話を聞き、早期改善を心掛けている。 ・5月の臨時休校明けに緊急子どもアンケートを実施し、児童の体と心の健康状態を把握できた。	A	「月の心」アンケートや学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見と事態の改善に努めることができた。 ・児童から個別に話を聞く時間（教育相談旬間）を設けることで、児童の置かれている環境や悩みなどを把握し学校生活に生かすことができた。	A	・いじめの早期発見について、細やかな対応がなされている。 ・地域でも「おかえり・ただいま」運動に協力し、子どもの様子を見守っている。	・生徒指導担当 ・人権・同和教育担当 ・児童生徒支援教員 ・教育相談担当
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎「自分の夢や目標に向かって努力しているか」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・各学年に応じたキャリア教育を充実させる。 ・学校行事や児童会活動を中心に「出番・協働・承認」をキーワードとして、活躍の場を設定する。	B	・全児童分のキャリアパスポートを準備し、自分の夢や目標を記入する活動を行った。 ・コロナ対応のため、児童会活動などの出番が減らないよう、リモートや動画を使い、活躍の場を設けた。	B	・「自分の夢や目標に向かって努力しているか」について、肯定的な回答をした児童は94%で、目標を達成した。 ・キャリアパスポートに取り組んだことで、各学年に応じたキャリア教育を行うことができた。 ・コロナ対応でリモートが中心となり、児童会活動が制限された。	B	・夢は徐々に変わってよいと思う。自分の夢を持たせることが大事である。 ・縦割り活動などで異学年交流があるのは、相互に良い影響を与えると思う。今後更に多くの出番をつくってほしい。	・キャリア教育担当 ・特活主任 ・体育主任
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○「こまめな手洗いを意識して行っている」について、肯定的な回答をした児童85%以上	・感染症、熱中症、インフルエンザ対策について、全校で予防法を確認する。 ・保健だより等で注意喚起を促す。	A	・感染症予防として4月に全校で手洗いの確認をした。 ・熱中症予防の資料を配布し、家庭へ周知した。 ・感染症や熱中症予防について、保健だよりや放送、掲示物等で注意喚起した。	A	・「こまめな手洗いを意識して行っている」について、肯定的な回答をした児童は93%で、目標を達成した。 ・放送や保健だよりで注意喚起をし、児童集会で再度手洗いの確認をした。特に、給食前に手洗いを促す放送を行うことで、児童の意識の向上と感染予防に努めることができた。	A	・学校からの情報発信で、家庭への注意喚起も進んだようだ。	・養護教諭 ・保健主事
	○安全に関する資質・能力の向上	○防犯ブザーの所持率85%以上 ○集団一斉下校の集合時間15分以内を毎回達成する。 ○「携帯電話等の使用について親子で決めたルールを守っている」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・防犯ブザーの所持について、下校指導で毎日確認する。 ・避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、児童の命や安全に対する意識の向上を図る。特に、避難訓練については、予告なし訓練や1年生の引渡し訓練を実施する。 ・SNSに関する児童・保護者向け講演会を実施する。 ・学校便りによる啓発を行う。	A	・防犯ブザー、帽子、名札の有無について、各学級で毎日確認をしている。 ・一斉下校の集合の仕方を変え、時間短縮を図っている。交通安全教室は、5月に実施した。避難訓練については、5月に避難経路確認、6月に風水害、1年生対象の緊急時保護者引き渡し、7月に不審者を実施した。 ・SNSに関しては、各学年の発達段階に応じて、道徳と学活で情報モラル教育を実施した。（7月）	A	・毎日学年単位で下校時刻を揃えたことで、児童の安全意識を高めることができた。下校時の防犯ブザー確認を1年間継続して行った結果、全校の所持率は88%まで高まった。 ・集団一斉下校では、集合形態を変えたことにより、15分以内の集合を概ね達成できた。 ・携帯電話等のルールの遵守について、肯定的な回答をした児童は89%であった。携帯電話等に関するアンケートで分かった児童の実態を、学校便りで保護者に報告した。 ・避難訓練を年間計画通りに実施することができた。開始時刻予告なしの訓練でも、スムーズな避難ができた。	A	・3年生のマップ作りの際は、校区内の危険箇所の確認に町づくり協議会が同行するなど、地域の安全確認と情報共有を行うことができた。	・生徒指導担当 ・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年次休暇を年間10日以上取得した教職員70%以上	・退勤予定時間を毎朝記入し、見通しをもって業務を行う。 ・教務をリーダーとして「働き方改革」を継続し、教育活動全般の「ムリ・ムダ・ムラ」をなくす。 ・学校閉庁日の設定、長期休業中の研修等の精選	B	・退勤予定時間を毎朝記入し、職員連絡会や職員会議で時間外在校等時間やワーク・ライフバランスについて考えるようにした。 ・学校閉庁日の設定と研修の精選・日程調整を行うことで、夏季休暇と年次休暇を取得しやすい環境をつくった。しかし夏季休業が短くなったこともあり、実際の年休取得は平均1人約3日である（8	B	・後半は、退勤予定時刻を毎朝記入することに加え、翌日達成状況を振り返るようにしたことで、職員のタイムマネジメントの意識が向上した。 ・冬季休業中は年休が取得しやすいように会議等の日程調整を教務や部会長と行った。コロナ対応で夏季休業が短かったため、年休取得については1人当たり平均8日、年間10日以上取得した職員は27%で、数値目標は達成できなかった。	B	・退勤予定時間を朝書き込むことで、タイムマネジメントを意識することができるので、大変よい取組だと思う。 ・振休取得など、休む時はしっかり休むといったメリハリが必要である。	・管理職 ・教務主任
	○PTAの働き方改革	○PTAの会議等を昨年度の8割にする。	・年間行事を基に、本部役員会と運営委員会の開催回数と開催時期を検討する。	A	・9月までの回数は本部役員会4回（昨年度より−1）、運営委員会1回（−2）の計5回実施した。	A	・年間の回数は本部役員会8回（昨年度より−3）、運営委員会2回（−3）の計10回を実施し、昨年度の約6割に抑えることができた。しかし、今年度はコロナの影響によることもあったため、再検討する必要がある。	A	・誰もが負担なく参加できるPTAを目指していくべきである。地域の会議は1時間以内に終了するよう努めている。	・管理職 ・教務主任

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○研修会を年8回行う。 ○子ども支援会議を毎月行う。	・研修会を実施する。 ・毎月子ども支援会議を開き、情報共有を行う。 ・専門機関との連携を図り、必要に応じてケース会議を開く。	A	・全職員対象で、個別の教育支援計画と個別の指導計画についての校内研修を行った。 ・講師を招き、全職員対象で特別支援学級の制度と現状及び児童への関わり方についての研修を行った。 ・1学期中に3回子ども支援会議を行った。 ・1学期中に12回のケース会議を行った。	A	・2・3学期中に8回の子ども支援会議を行い、児童の様子や支援の共有ができた。 ・子ども支援会議を受けて、2・3学期中に10回のケース会議を行い、効果的な支援の方向性について話し合い、共通理解することができた。 ・専門機関との連携を図り、指導・助言を受け、支援の実践および改善を行った。	A	・児童の状況を把握しケース会議を適宜開くことで、学校としての適切な支援ができると思う。	・特別支援コーディネーター
○社会に開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携 ○地域の「人・もの・こと」の活用	○校長ブログの日々更新、年6回の学校公開、月2回の学校便り発行を行う。 ○学校ボランティアを募る。 ○保護者アンケートを実施する。	・郷土学習を継続し、地域人材の活用を行う。 ・地域行事（ふれあい祭り、文芸賞等）への参画を促す。 ・学校ボランティアを募り、社会に開かれた学校づくりのペースとする。	B	・校長ブログの日々更新、月2回の学校便り発行はほぼ計画通りである。しかし、学校公開については、コロナ対応で1学期に1年生のみの実施であった。 ・郷土学習については、コロナ対応を講じながら実施している。 ・学校ボランティアについてはまだ実施できていない。	B	・校長ブログの日々更新、月2回の学校便り発行は計画通りであった。学校公開については、コロナ対応で回数を減らすこともあったが、時間帯をずらす等の対応で実施した。 ・郷土学習については、コロナ対策を講じながら実施した。 ・学校ボランティアについてはコロナ対応で外部との接触が難しく、実施できなかった。 ・保護者アンケートは12月に実施することができた。意見等については、次年度に生かしていきたい。	A	・学校便りは地域でも回覧しているので、学校の様子がよく分かる。 ・見守り隊での一斉下校の補助や物づくりクラブでの外部講師など、学校への関わりはできていると思う。来年度学校ボランティアが更に充実すれば良いと思う。	・管理職

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・朝読書の取組により、落ち着いた雰囲気で朝をスタートすることができるようになり、学習態度も良好であった。来年度はこの状況を継続しつつ自ら学習に取り組めるような授業づくりを目指す。 ・心の教育については、今年度の取組を継続しつつ、児童会活動等での「出番・協働・承認」の場を設定していく。 ・教職員の働き方改革については、職員の意識改革が進んできているため、継続して取り組む。また、PTAについては来年度会の持ち方について再検討していく。 ・特別支援教育については、来年度も全職員での共通理解と早期対応を目指していく。